

特集

認知症の人のターミナルケア

認知症になってもときどきの喜びや悲しみ、感謝の気持ちはもっています。それを上手に表現できないのは、覚えていられないからです。徐々に記憶が失われ、ひとりでできないことが増え、身体は衰えていく……本人はどんなに不安なことだろうと思います。認知症の人はどのような転帰をたどり、かわる者の対応はどうあったらよいのか。認知症の人のターミナルに焦点をあてます。

認知症の人たちのターミナルのありようを考える 宮永和夫
最期までその人らしく生きることを支えるために

——看護に求められる認知症への深い理解 松村ちづか

認知症の妻とすごした日々をふり返って 長谷川正

■特別記事

これだけはおさえておきたい——ケアマネジャー直前試験対策 2007 和田忠志

■研究報告

介護保険新予防給付導入による要支援高齢者の生活の変化 大宮薫

■実践報告

高齢期の生きがいづくりのための生涯学習 青田正子

■連載

時間を忘れて 天方晴子／訪問看護時時刻々 石田昌宏／もの忘れを補うモノたち—簡単な道具と機器を利用した認知症患者の日常生活支援 安田清／大牟田発！地域の縁側で認知症ケア 牧坂秀敏／わたしのことをわたしから 安藤正英／訪問看護師に必要な口腔ケアの知識 角保徳／在宅で療養するがん患者と家族のためのケアの手引き 福井小紀子／わが憧れの老い 服部祥子／ほんとの出会い 岡田真紀／萌黄色のハンカチーフ 赤川次郎

編集後記

●今号の特集「高齢者虐待を考える」。自らの勉強不足が露呈してしまうのですが、この特集にかかわるまで児童虐待については知っておりましたが、高齢者についてはまるで気が付いておらず、直接、間接を問わずご執筆いただいた皆様が多くをご指導いただきました。家庭内で発生するため目に付きにくく、手も出しにくいこの問題。今後より一層の取り組みが期待されます。また、今号で「桜色のハーフコート」の連載が終了いたしました。引き続き連載されます赤川次郎先生の次回作、「萌黄色のハンカチーフ」にご期待ください。 ……富岡

●梅雨の晴れ間の日曜日、104 歳の大伯母の葬儀に参列しました。近所の人たちに見送られ、コシヒカリの稲が青々と広がる田んぼの間を縫って山の上の火葬場へ。喪主をつとめたおじはちょうど 80 歳。自宅での看取りは「(訪問) 看護師さんがよく教えてくれて、ほんとうにありがたかった」とおばが感謝していました。ここ 2、3 年は時々ショートステイを利用しながら、囲わず、囲われず、家族の休息も可能とした介護保険があればこそ理想的な大往生と思いました。 ……伊藤

訪問看護と介護 第12巻 第8号 2007年8月15日発行(毎月1回15日発行)

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2007, Printed in Japan
1部定価1,260円(本体1,200円+税5%) 年ごめり予約購読料13,200円(年間12冊, 消費税, 送料弊社負担)

発行: 株式会社 医学書院/代表者: 金原 優/販売部: 03-3817-5657/社内案内: 03-3817-5600

「訪問看護と介護」編集室: 直通 03-3817-5787 FAX 03-5804-0485 担当: 富岡・伊藤・早田

Eメール houmon@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページURL http://www.igaku-shoin.co.jp

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本紙の無断複写は著作権法上での例外を除き禁止されています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0917-1355/05/¥250/論文JCLS」は、1論文1回複写につき250円要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。